

平和への一歩

読谷小学校 六年二組 川之上 芽衣

七月二十九日 吉川さんの話で、

「弟を埋める」。

と聞いたとき私はびっくりしました。私にも

弟がいます。でも、大好きな家族を埋めるこ

となんて想像することができません。

「それは、今平和だからだろうか。」

疑問がわきました。だから、私は平和につい

て考えてみることにしました。

今から七十五年前、沖縄では、青い空が黒

く雲におおわれ、青い海は赤く、そまわり、緑の

大地は焼け野原になる。「戦争」がおこりまし

た。

私のふいおはあちゃんも戦争体験者ですが、

戦争について話してくれたことはありません。

き、と、もう思い出したくないほど悲惨だっ

たのだと思います。

ですか、今日、私は戦争のおそろしさ、を

戦争体験者の方から、教えてもらおうという貴

重な時間をもろうことができませんでした。

私が特に印象に残った話は、吉川さんのお母さんと弟と一緒ににけたという話です。

私には想像できませんでした。ですが、「ばくだん」という武器のおそろしさはとてもよく分かりました。なぜなら泣きながらそれでも一生けん命一言一言を言っている吉川さんを見たからです。

「戦争は怖い。」
その言葉が何度も頭をよぎりました。

疑問もありませんでした。それは「人が人でなくなる。」
という言葉です。私は、神縄の人の心が全く

ちがう心に変化すると解説しました。

心がちがうものに変化したときもう治りないのだろうか？と疑問が次々に浮かび上がりました。

私たちは戦争を体験してはいません。

が、私たちのひいおはあちゃんなどは体験していません。ですから、私たちは次の世代に

戦争のおそろしさや平和の大切さを伝えて
 いかなければなりません。この思いを受けつ
 いでいくことを私は「平和への一歩」と思
 います。

戦争は絶対にあつてはならないことです。
 なぜなら、多くの人が亡くなり、今だにあの
 日のことが忘れられず、苦しんでいる人がま
 だたくさんいるからです。

これから多くの戦争体験者の話を聞き、
 なぜ戦争がおこるのか、平和な世界を実現さ
 せるためには何が必要なのか、もっと学び、
 みんなと協力して、平和な世界を実現させた
 いです。